

2024年度タイ国日本食レストラン調査

調査期間:

- ・店舗数調査: 2024年8月15日～10月31日
- ・状況ヒアリング調査(21社・団体): 2024年11月1日～12月27日

調査方法:

- ・各社ホームページ、Facebookページ
- ・関連する新聞マスコミ報道
- ・電話取材

対象店舗:

- ・日本食または日本風アレンジされた料理を提供する店
- ・日本食メニューが過半であること
- ・客席具備の外食店舗

(※客席を具備しないデリバリー専門店を対象外)

公表日: 2025年1月8日

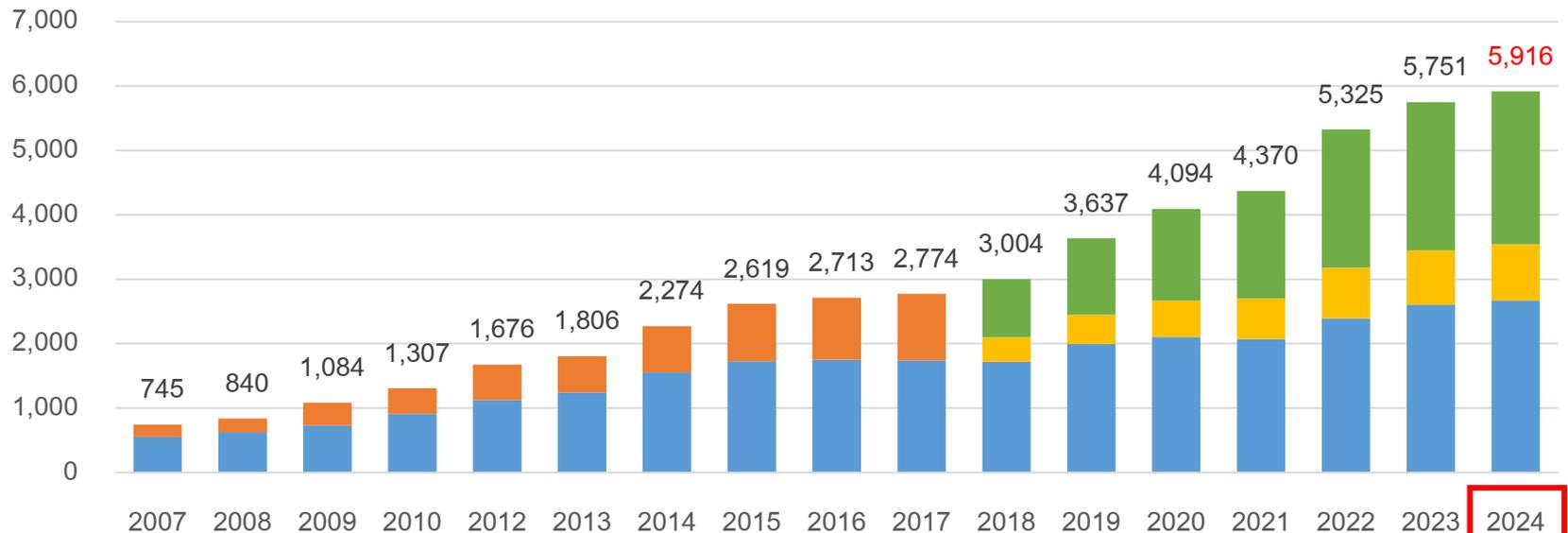
【分類方法】

業種名	提供されているメニューの例
寿司	寿司、刺身
総合和食	和定食、懐石料理
ラーメン	ラーメン、餃子
すき/しゃぶ	すき焼き、しゃぶしゃぶ
居酒屋	焼き鳥、唐揚げ、酒類
焼肉	焼肉
喫茶	抹茶ドリンク、和風ケーキ
丼専門	牛丼、天丼、豚丼、海鮮丼
カレー/オムライス	カレーライス、オムライス
総合洋食	ハンバーグ、和風スパゲティ
揚げ物専門	豚カツ、串カツ、天ぷら
鉄板焼き	鉄板料理、お好み焼き、たこ焼き
蕎麦/うどん	蕎麦、うどん

タイにおける日本食レストラン店舗数の推移

- 2024年は5,916店舗と前年から2.9%増加。増加店舗数は165店舗。
- バンコク、バンコク近郊5県、その他の地方で店舗数が増加。バンコクは2.7%、バンコク近郊は2.7%、その他の地方は3.1%増加した。

■ バンコク都 ■ 地方 ■ 近郊5県 ■ その他の地方



その他の地方	190	215	355	394	548	565	721	891	961	1,034	903	1,189	1,425	1,671	2,147	2,299	2,371
近郊5県											383	455	564	626	784	850	873
バンコク都	555	625	729	913	1,128	1,241	1,553	1,728	1,752	1,740	1,718	1,993	2,105	2,073	2,394	2,602	2,672

※2011年は調査を実施せず。

※2017年以前はバンコク近郊5県とその他の地方を分けていない。

※バンコク近郊5県とは、ナコンパトム、ノンタブリー、パトゥムターニー、サムットプラーカーン、サムットサーコーンを指す。

※2020年、2021年、2022年は休業中の店舗は含まない。

日本食レストラン店舗数調査 業種別

- 業種別では総合和食の店舗数が最も多く、前年から6.3%増の1,439店舗。次いで、寿司、ラーメン、居酒屋、すき/しゃぶ、焼肉と続く。
- 蕎麦/うどん、喫茶、居酒屋等の店舗数は増加し、他方、寿司は減少数が増加数を上回り、前年から6.8%の減少となった。

業種	2022	2023	2024			
			増加	減少	合計	増減率(%)
総合和食	1,273	1,354	213	128	1,439	6.3
寿司	1,431	1,372	181	274	1,279	-6.8
ラーメン	611	741	157	96	802	8.2
居酒屋	369	437	102	59	480	9.8
すき/しゃぶ	386	453	70	75	448	-1.1
焼肉	341	417	70	54	433	3.8
喫茶	278	291	100	62	329	13.1
丼専門	167	169	31	38	162	-4.1
カレー/オムライス	141	158	20	22	156	-1.3
総合洋食	129	144	19	12	151	4.9
揚げ物専門	123	136	31	18	149	9.6
鉄板焼き	55	48	8	4	52	8.3
蕎麦/うどん	21	31	7	2	36	16.1
合計	5,325	5,751	1,009	844	5,916	2.9

(備考)※ 減少には、閉店した店舗、恒久的なデリバリーへの業態変更、メニュー変更、座席具備除外等により対象外となった店舗が含まれる。
 ※2022年は休業中の店舗を含まない。
 ※増減率は増加率が高い順に濃い緑色で表示。

日本食レストラン店舗数調査 バンコク/バンコク近郊5県/その他の地方・業種別

- バンコクは居酒屋、蕎麦/うどん、バンコク近郊は蕎麦/うどん、喫茶、その他の地方は揚げ物専門、喫茶が特に増加した。

業種	バンコク				バンコク近郊				その他の地方			
	2022	2023	2024		2022	2023	2024		2022	2023	2024	
			店舗数	増減率 (%)			店舗数	増減率 (%)			店舗数	増減率 (%)
総合和食	473	504	501	-0.6	172	196	206	5.1	628	654	732	11.9
寿司	469	489	484	-1.0	271	235	224	-4.7	691	648	571	-11.9
ラーメン	300	352	378	7.4	104	136	153	12.5	207	253	271	7.1
居酒屋	220	252	290	15.1	23	33	33	0.0	126	152	157	3.3
すき/しゃぶ	158	183	188	2.7	53	68	68	0.0	175	202	192	-5.0
焼肉	178	200	206	3.0	42	55	53	-3.6	121	162	174	7.4
喫茶	174	177	183	3.4	26	30	37	23.3	78	84	109	29.8
丼専門	105	102	96	-5.9	26	26	23	-11.5	36	41	43	4.9
カレー/オムライス	78	86	81	-5.8	20	21	20	-4.8	43	51	55	7.8
総合洋食	91	100	100	0.0	20	21	22	4.8	18	23	29	26.1
揚げ物専門	93	102	107	4.9	21	23	26	13.0	9	11	16	45.5
鉄板焼き	36	30	30	0.0	6	5	6	20.0	13	13	16	23.1
蕎麦/うどん	19	25	28	12.0	0	1	2	100.0	2	5	6	20.0
合計	2,394	2,602	2,672	2.7	784	850	873	2.7	2,147	2,299	2,371	3.1

(備考) ※バンコク近郊5県とは、ナコンパトム、ノンタブリー、パトゥムターニー、サムットプレーカーン、サムットサーコーンを指す。
※増減率は増加率が高い順に濃い緑色で表示。

個店店舗数および複数店舗展開のブランド数の推移

- 複数店舗を持たない個店の店舗数は前年から2.1%増加し2,237店舗。
- 複数の店舗を持つ日本食レストランのブランド数も増加傾向にあり、特に51店舗以上の店舗を持つブランドは30%、2~5店舗の店舗数を持つブランドは12.6%と大幅に増加した。

図. 個店の店舗数

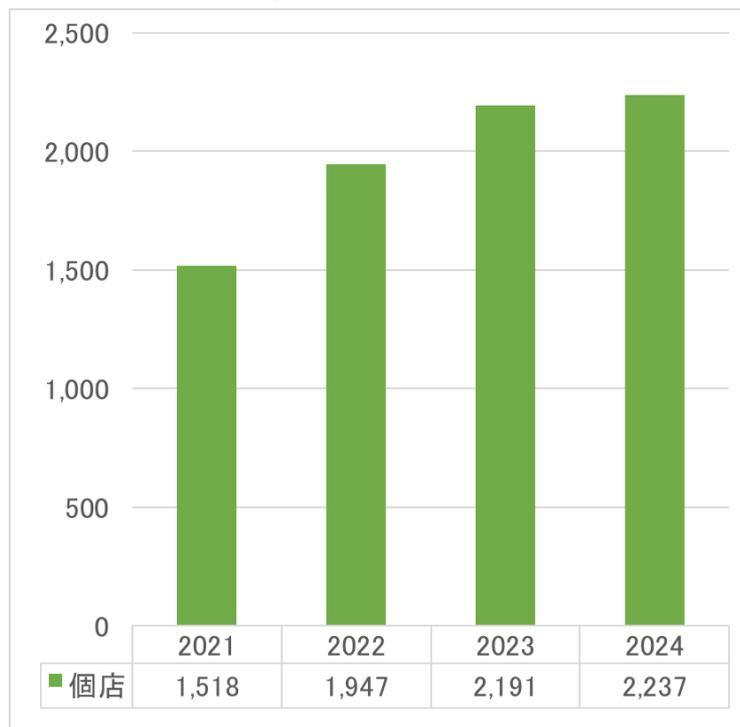
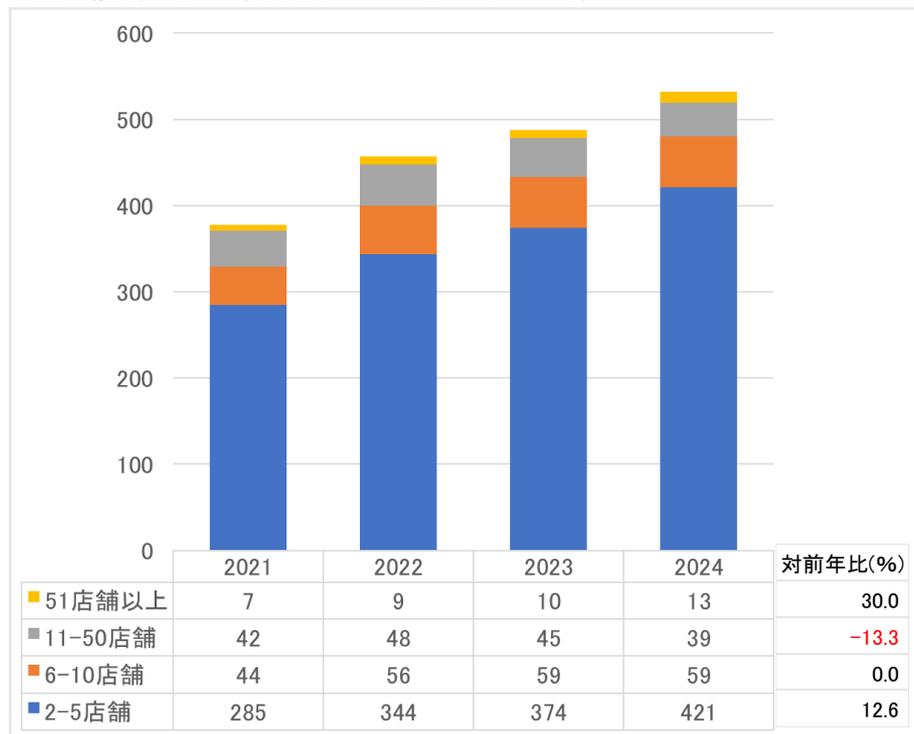


図. 複数店舗展開しているブランド数



客単価別内訳

- 2024年営業確認店舗を客単価別に見ると、店舗数が多い順では、101～250パーツ(2,057店舗)、251～500パーツ(1,401店舗)、100パーツ以下(749店舗)、501～1,000パーツ(681店舗)。
- 2024年は客単価が1,000パーツ超の店が13.9%と大きく増加した。

客単価	2023年				2024年				増減率(%)			
	全国	地域別			全国	地域別			全国	地域別		
		バンコク	近郊	その他の地方		バンコク	近郊	その他の地方		バンコク	近郊	その他の地方
100パーツ以下	691	187	127	377	749	208	155	386	8.4	11.2	22.0	2.4
101～250パーツ	2,040	892	340	808	2,057	867	358	832	0.8	-2.8	5.3	3.0
251～500パーツ	1,333	694	181	458	1,401	738	185	478	5.1	6.3	2.2	4.4
501～1,000パーツ	690	451	83	156	681	452	83	146	-1.3	0.2	0.0	-6.4
1,000パーツ超	237	198	10	29	270	224	13	33	13.9	13.1	30.0	13.8
確認できず	760	180	109	471	758	183	79	496	-0.3	1.7	-27.5	5.3
合計	5,751	2,602	850	2,299	5,916	2,672	873	2,371	2.9	2.7	2.7	3.1

客単価	2024年 業種別(上位6業種)					
	総合和食	寿司	ラーメン	居酒屋	すき/しゃぶ	焼肉
100パーツ以下	113	301	136	20	14	19
101～250パーツ	547	302	457	104	27	47
251～500パーツ	375	199	114	158	215	143
501～1,000パーツ	174	116	4	81	139	132
1,000パーツ超	61	116	-	18	25	39
確認できず	169	245	91	99	28	53
合計	1,439	1,279	802	480	448	433

出所: タイのグルメレビューサイトWongnai (<https://www.wongnai.com/>)のデータを元にJETROバンコク事務所作成

日本食レストランの地方での分布

- 店舗数は地方でも増加傾向にあり、チェンマイは23店舗増え280店舗に、ナコンパトムは15店舗増え104店舗に、プーケットは11店舗増え142店舗になった。2020年以降、全ての県で日本食レストランが営業されている。

図. 日本食レストランの分布

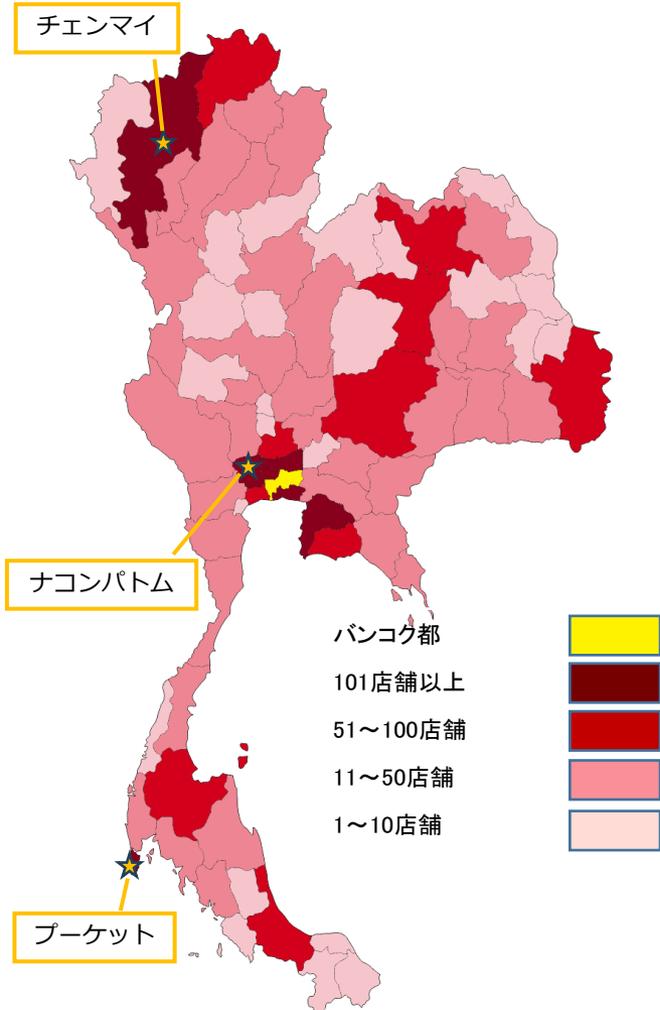


表. 各県の日本食レストラン店舗数、タイ人口、観光客数

順位	県名	2023年 (店舗数)	2024年			人口 (2023年) (万人)	観光客数 (2022年) (万人)
			増加	減少	店舗数		
1	バンコク都	2,602	429	359	2,672	547	2,702
2	チョンブリー県	358	49	44	363	162	998
3	ノンタブリー県	355	75	70	360	131	84
4	チェンマイ県	257	49	26	280	180	593
5	サムットプラカーン県	184	26	28	182	137	75
6	パトゥムターニー県	173	34	31	176	122	38
7	プーケット県	131	30	19	142	42	521
8	ナコンパトム県	89	32	17	104	92	96
9	ナコンラーチャシーマー県	103	6	9	100	263	393
10	ソングラー県	85	17	16	86	143	224
11	コーンケン県	79	15	14	80	178	236
12	ラヨン県	69	16	6	79	77	212
13	チェンライ県	64	11	11	64	130	373
14	アユタヤー県	56	8	7	57	82	125
14	スラーターニー県	54	8	5	57	108	316
16	ウドンターニー県	52	10	8	54	156	145
17	ウボンラーチャターニー県	54	6	8	52	187	120
18	サムットサーコーン県	49	12	10	51	59	27
19	チャチューンサオ県	38	8	3	43	73	33
20	ブラチュアアップキーリーカン県	43	3	5	41	55	534
	その他	856	165	148	873	3,681	4,538
	合計	5,751	1,009	844	5,916	6,605	12,385

出所: タイ人口=タイ国内務省(2024年1月発表)
観光客数=タイ国観光およびスポーツ省(2024年6月発表)

日本食レストランを巡る近況、今後の見通し (1/2)

● 全国的に店舗数は増加傾向にあるが、レストラン間の競争等により伸びは鈍化。

- タイの景気低迷により消費者の購買力が低下し、レストラン各社はプロモーション、メニュー・価格の調整などで集客努力が求められている。
- 日本食レストランを含む外食産業全体の競争が激化しているため、日本食レストランは全国的に店舗数は増加しているものの伸びは鈍化。

- 2024年の外食産業の市場規模は前年から8.9%拡大し5,450億バーツになる見込み。市場規模は店のタイプにより細分化されており、日本食レストランの多くが含まれるフルサービスレストランは6.9%拡大し、2,070億バーツになる見込み。

(KASIKORN RESEARCH CENTER - レストランビジネスレポート 2024年12月)

- 2025年の外食産業の市場規模は前年から4.8%拡大し5,720億バーツになると予測。フルサービスレストランは2.9%拡大し、2,130億バーツになると予測。

(KASIKORN RESEARCH CENTER - Industry Analysis and Outlook 2024年12月)

● 求められるニーズ

- 寿司業種では近年質が高い寿司店舗が増えたことにより、消費者が求める寿司の品質が引き上げられると同時にリーズナブルな価格で本格的な寿司を楽しむという新しいニーズが出来たとの声が多い。
- ラーメン業種では品質にこだわった店舗が人気を集めている。他の業種についても新たなメニューやサービスなどで消費者から注目を集める店が出てきている。
- タイの外食産業では常に新しいものが求められる。目新しく、タイ人の嗜好に合わせたものが出てくれば更なるニーズを創出出来る可能性が高い。

出所：関係者からのヒアリングをもとに作成

日本食レストランを巡る近況、今後の見通し (2/2)

● 日本食普及に向けた課題

- 消費者の購買力の低下、レストラン間の競争の激化以外にも、原材料価格・人件費・店舗賃貸料の値上がり大きな課題として挙げられている。
- 特に地方部においては、消費者の求める価格帯にあった日本食メニューの提供、都市部で普及されているメニューや食材の知識向上、コールドチェーンの整備が課題。

● 今後の見通し

- タイ料理、他国料理においても店舗が増えており消費者の選択肢が広がっているが、日本食は長年タイで提供され、タイ人消費者の間ですでに定着していることから引き続き日本食は求められる。
- 訪日タイ人が増えること等により、タイ人の日本食に対する経験および知識が増え、これまで以上に本物の日本食や日本の食のトレンドを求める人が増える傾向がある。

出所：関係者からのヒアリングをもとに作成